

No.19

黒川まるいし農場 株式会社

代表取締役

小林 範正 第7期生

店舗運営責任者

小林 彩織 第1期生



黒川能の里としても名を馳せる鶴岡市柳引の黒川地区。そこで代々続く農地を引き継ぎ、農業を営む小林範正さん、彩織さん夫婦。気候変動や物価高騰など様々な外部要因の変化に晒される中、経営を今より一歩でも前に進めるため、日タトライ&エラーを繰り返している。ともに若手経営者塾の卒業生である二人。眼前に月山と鳥海山が広がる雄大なロケーションの中、その挑戦を取材した。地元の工業高校を卒業後、農業者大学校へ進学。卒業後すぐに家業である農業に従事した範正さん。農業経営を今より少しでも良くするため、現場の変革のみならず様々なことに取り組んできた。そんな中、経営者仲間とのつながりを作り、経営力を向上させるために鶴岡青年会議所(以下:JC)に入会したことが、その後の黒川まるいし農場の経営に大きな影響をもたらすこととなる。

退路を断つ

JCには様々な部会が存在する。その中の「米穀部会」において範正さんは、全国部会長という大役を担った。生産した米の大部分を農協に出荷し、販売は農協が担うというのが一般的な農家のビジネスモデルだ。しかし農協に頼らず、全て自分で販路を見つけているということが黒川まるいし農場の特徴の一つだ。その販路を見つけている際に、全国部会長を務めていた際に培ったコネクションが大いに役立っており、全国に対する販路を有することが、黒川まるいし農場の大きな強みとなっている。自分で販路を見つけたら委託経費がなくなり売上が高くなるというメリットもあるが、それ以上に経営者の仕事が増えることによる圃場(ほじょう)管理不足での収穫量の減少や資金管理の負担増などといったリスクも大きい。生産から販売管理まで全て単独で行うことは決して容易ではない。だが、「退路を断つ」。自らの状況をこう表現する範正さんは、難しい経営課題に果敢にチャレンジする。県外の大規模な米問屋や、誰もが知っている大手菓子販売全国チェーンとの契約交渉など、地域内では想像もつかないような厳しい戦場で範正さんは戦っている。

もう一つの販路

黒川まるいし農場では、範正さんが担当する対業者向け販売(BtoB)に加えて、自社ECや、その他のECサイトで一般個人向けに販売する小売(BtoC)事業にも力を入れている。法人全体の生産量の30%を販売するこの部門の責任者となっているのが彩織さんだ。彩織さんは女性ならではのセンスで様々なオリジナル商品を販売している。例えば子どもが1歳の誕生日を迎えたときの伝統行

事である一升米。その行事用に可愛いリュックと米をセツト販売するなど、彩織さん自身が5人の子育てをしたからこそこの想いがこもった商品を取り扱う。その他にも贈る人、受け取る人のシーンに想いを巡らせ、センスの良い贈答用商品などを数多くラインナップしている。そして、小売事業に注力するのはもう一つ理由がある。米農家の売上金は、秋の新米販売後に一括して入金される場合が多く、資金繰りが極めて難しい。季節に関わらない一般顧客を確保することが資金繰りの安定化に繋がるのだ。また、販路を全て自分で確保しなければならぬ黒川まるいし農場にとって、リスクがあるBtoBの一先集中や大口化は出来るだけ避けたい。そういった意味でも小口多数の一般顧客を確保しておくことも非常に重要なのだ。そのためにも、彩織さんは黒川まるいし農場にとって欠かせないキーパーソンとなっている。

若手経営者塾について

実は、鶴岡信用金庫のOGである彩織さん。若手経営者塾には法人を立ち上げた直後、1期生として入塾した。そしてその後範正さんは6期生として入塾したが、繁忙により卒業できず、悔しい思いを払しょくするため7期生として再入塾した。二人とも豊富な講師や異業種の仲間との交流が刺激になったという。

原点回帰

長い農業キャリアの中で様々なことに挑戦してきた範正さん。省力化を目指し、代々伝承されてきた工程を省いたこともある。しかし、今になって気付いたのは「昔から伝承されてきた作業には全て意味があった」ということだ。一方で手間の掛かる作業は現代農業における効率化と逆行することも多い。それでも今、「昔のやり方に戻す」ことを進めている。そして、「米作りにおいて最も重要なことは「土」をつくること」。こんなことも話してくれた。昨今の天候不順や異常気象に耐えうる肥沃な土を作ることで、「土」に助けってもらうことがあるのだという。「天気はコントロールできない。変えられるのは土だけ。」pH値と微生物、有機物の最適なバランスを整え、「循環する土を作る」。これが30年以上トライ&エラーを繰り返して辿り着いた「境地」なのかもしれない。肥料価格は数年前の1.5倍。米の価格は極めて不安定。天候不順や異常気象、温暖化の及ぼす影響は計り知れない。それらに加えて販路は全て自分で探さなければならぬ。厳しい経営環境の中、農業の原点を見つめ直し、最も基本的な部分である「土」から経営を変えていく。これからも範正さん彩織さんの挑戦は続いていく。

黒川まるいし農場 株式会社

鶴岡市黒川字漆原136

HP: <https://www.k-maruishi-farm.com/>

TEL: 0235-78-7260



つなぐ力で100年幸せな街づくり

鶴岡信用金庫

<https://www.tsuruoka-sk.jp/>

